

# 議会六十年史を祝して

前町長

佐藤 邦夫



新生五城目町が誕生し60周年を迎え、その輝かしい足跡を顕彰し、後世への道しるべともなろう「議会60年史」を発刊されますことは誠に意義深く心から御祝いを申し上げます。

平成元年町長に就任し4期16年の奉職となりましたが、想えば前町政の成果を受け継ぎ、町民百人会議の民意をもとに町新総合発展計画を策定し、各分野にわたり町の基盤整備に力を注いだ時代でありました。行財政改革として部長制廃止や役場機構改革、定員適正化、財政健全化指導団体からの脱却、涸渇していた各種基金創設と充実、職員待遇改善、町政座談会、定住の為の公共下水道、集落排水、合併浄化槽、各地区統合簡易水道、上水老朽管更新、公営住宅、各地集会所や地区公民館、教育としての保育園幼稚園、馬場目小、杉沢小中学校建設、福祉保健の為の老人ホーム森山荘、特別養護老人ホーム広青苑、屋内ゲートボール場、保健センター、消防力向上と救急救命体制構築、火葬場、湖東老健施設誘致、雇用の為のイオンショッピングセンター、東北部品、秋田ホーセ大川工場の企業誘致、町の魅力づくりとしての東京千代田区との姉妹提携、天翔太鼓、五城館、盆城庵、道の駅悠紀の国、環境と文化のむら文化の館、戸村堰緑道、又高速道とインターチェンジの供用、国県町道農林道整備など多くの事業の完成をみる事ができました。又森林組合再建支援、全県植樹祭の開催、近畿五城目会設立などもありましたが、特筆すべきことは、平成元年天皇陛下御即位の大礼にあたり、悠紀の国に選定され、大嘗祭の大事業を大田主伊藤容一郎氏共ども、秋田県、県警察、JA、消防団など各機関の御協力のもとに、無事その任を果たすことができ、皇宮での大嘗祭大礼に参内する栄に浴することができましたことは無上の喜びとするところでありました。

これら全てのことは町議会、議員各位の御指導御鞭撻の賜物であり深く敬意と感謝を申し上げます。時代は正に変革の潮流の中にあります。時代をみつめふるさとの未来を描き、具体的政策を掲げ、勇気と情熱、気概をもって挑戦し明日を拓くことが求められています。

町議会の果たす役割りは更に大きく重要なものがあります。たゆまぬ御尽力あらんことを願い、町勢進展に尽くされた議員各位に深く敬意を表し、これまでの足跡の上に更に輝かしい歴史を刻まれんことを念じ、御祝いとします。

# 在職の思い出

元 議会事務局長  
(昭和60年4月1日～平成元年3月31日)

館岡 克巳



私は、昭和60年4月から平成元年4月までの4年1か月間、五城目町議会事務局長として奉職しました。

昭和60年は新生五城目町が誕生してからちょうど30周年の年で、着任早々に「議会30年史」発刊の編集作業にあたることになりましたが、発刊までの期間が8月から10月末までと短かったことや、私をはじめ事務局職員が編集作業に不慣れだったこともあり、発刊が遅れてしまうという事態になってしまいました。今更ながら、お詫び申し上げます。

刊行にあたっては、写真は元議員の方々やご家族のご協力をいただき、また、編集・校正には役場職員の方々からお力添えをいただきました。予想以上のページ数にもかかわらず、協同印刷さんのご努力により無事発行できました。お世話になった皆様に改めて厚くお礼を申し上げます。

編集後記は、「30年を一つの区切りとして活用していただければ幸いです」という文章で結んでいます。

その後、議会の仕事にもだいたい慣れてきた昭和62年7月、当時の議長の小熊金之助さんが突然病気のため入院し、約2か月間の闘病の後逝去されました。

9月21日に小体育館での議会葬と決まり、1週間ほど準備のため多忙な日が続きました。議会葬当日、住職の指示に従って館内に祭壇を作り、祭壇の前に焼香箱を10数個置き、火種に点火し、準備万端整った午前11時におごそかに読経が始まり、弔辞・弔電披露と長々と続いた後、会葬者の焼香が行われましたが、あちこちから「火が消えている」との声が聞こえてきました。焼香箱を見るとどれもこれも火が消えていて、慌ててライターやマッチを探しても見当たらず、ただ呆然と立ち尽くすしかありませんでした。小職の不手際のせいで、香のないままの議会葬となってしまったのです。当時を思い返すたびに、悔やまれてなりません。

在職当時、原田美和子さんと2年間、後の2年間は桜田由紀子さんと一緒に仕事をしましたが、お二人とも明朗闊達な性格で、仕事を後に残すようなことなく、4年間この至らぬ事務局長を支えてくれました。遅ればせながら感謝申し上げます。

合併60周年に当たり、五城目町のますますの躍進を祈念し、在職の思い出といたします。

# 議会在職の思い出

元 議会事務局長  
(平成4年4月1日～平成8年3月31日)

石井和夫



私は平成4年4月議会事務局に出向を受け平成8年3月までの4年間勤めさせて戴きましたけれどもあまり良い思い出は残っておりません。強いて言えば平成6年3月議会では議員選挙直後の就任から2年経過したため議長、副議長が慣例によって辞任し議長は候補者もなく再選、これに対して副議長には複数が名乗り出ました。暗黙の了解から調整に入りましたが難航し長時間に及ぶ話し合いの結果再選されたという例があります。

こうした無駄な時間をかけ議員たちに反省を強い見直すべきとの共通の声が上がったこと。また、町の総合交流センター「五城館」が町民の活動拠点として平成7年4月にオープンした。この建物は元JAの倉庫（米蔵）であったものを購入し改築したもので、この施設に関し本議会では、さまざまな意見等が出されてスムーズにできなかったことが浮かんで来ます。

平成7年3月議会において、町で職員経費の削減を図るため既存の町営観光施設を外部委託の検討とし、町開発公社にまとまった。

この外部委託に関連した条例の制定案、改正案は議会においてこれまたさまざまな意見質疑等もあり難航し、結局原案どおり可決した。また、ある議員から本会議において議事録に署名印を押したことはない。議事録はどのようになっているかと言う質問が出されました。後日調査したところ平成3年度以前より6年間の議事録が作成されていないことが判明した。この6年間の議事録の作成を在職から4年間毎日のように録音テープを聞きながら作成に励み、異動時までようやく全部完了し上司に報告したことが今心に残っております。

議会事務局では、2名の職員が配置され平成4年4月から1年間桜田由紀子さんと、平成5年4月から伊藤房子さんと3年間共に協力しあいながら議会運営に携わって来ましたが、特に平成4年12月定例議会の本会議時に父の死亡によりどうしても欠勤しなければならない状況から、桜田さんに大変苦勞をかけたことが脳裏に浮かんで来ます。

いずれ在職中両人のささえがあつてこそ無事職務を果せた事に感謝すると共に、議会の益々の発展と議員各位のご活躍を期待し、合併60周年に当って町の一層の躍進を祈念いたします。

# 波乱に満ちた三年間

元 議会事務局長  
(平成8年4月1日～平成11年3月31日)

金野 實



平成8年4月1日に議会事務局への出向を命ぜられ、議会改選後の初議会が4月4日でした。議会の議の字も解らず、議事進行も皆目見当もつかない中で、幸いにベテラン書記の伊藤房子さんと、前任者である石井和夫さんの御指導をいただきながら何とか終えることができました。つぎは保育園・小中学校・高校の入学式の挨拶原稿作成です。これも房子さんが資料を集めてくれて何とか無事に乗り切ることができました。

6月議会は教育施設等整備に関する特別委員会が設置されました。水道課関係の工事に関わる談合問題で入札が延期、馬小改築当時の町長の給与差し押さえ確認等、議論は白熱しました。その後の議会でも水道工事3件を否決。馬小改築調査設計委託料を削除した修正案を賛成多数で可決。臨時議会で否決された一般廃棄物埋立処分場の工事請負契約を公募型指名競争入札により一転して全会一致で可決するなど議会の度ごとにドラマがありました。

特に印象に残っているのは2月の臨時議会での議長選挙です。長時間を費やしても協議がまとまらず、本会議を再開したところ8人が退場してしまい、残った13人で議事を進行することとなりました。閉会時間は午後9時25分でありました。

4月の臨時議会では助役と収入役の選任案を否決し、その後の臨時議会でも同意。12月議会は地教委に関した「セクハラ」報道が為され、議会は揺れとなり、全員協議会を断続的に開催するなど対応におおわらわでした。

平成10年4月には議会書記が伊藤房子さんから斎藤琴子さんに代わりました。公共下水道工事に関する議案が否決されたら業者から議会宛てに内容証明が送付されたこともありました。任期後半は「自衛隊射場誘致」と「産業廃棄物最終処分場」の建設問題が急浮上し、誘致反対・再考・計画の白紙撤回を求めるなど請願・陳情が多数提出されました。有志議員が防衛庁陳情を行い、本会議場で釈明する場面もありました。結局のところ「産廃処分場」は立ち消えとなり、自衛隊射場については「移転計画はないし、誘致論争は迷惑である」との防衛庁の見解が示され、議論は収束しました。

今思い返しても波乱に満ちた3年間でありましたが、議員研修等にも随行し貴重な体験をさせていただくなど、内容豊かな議会事務局時代でありました。

議長はじめ議員の皆様には大変お世話になりました。今後尚一層の御活躍を祈念申し上げます。

# 町民福祉の向上のために

元 議会事務局長  
(平成11年4月1日～平成13年3月31日)  
(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

小 熊 弘 一



歴史ある五城目町が合併60周年を迎えることになりました。長い年月を経て、積み上げられた数々の重みを感じられます。

私も、短い期間ではありましたが、議会事務局長として、2度（通算3年）お世話になっております。

最初の議会事務局出向は、平成11年度でした。前年度から陸上自衛隊射撃訓練場の誘致問題で議会と町執行部がもめていた大変な時期でしたので、不安もありました。当時は職員として斉藤琴子さん、議長は議会事務局長の経験もある石井孫一さんでした。

議会事務局長として2ヶ月がたった6月に、6月定例会が始まりました。私にとって初めての議会でしたが、行政報告と一般質問が終わると、再び会議が開かれることがなく流会してしまいました。議会事務局長としての初議会が流会だったので、かなり苦い経験です。

また、翌年の4月には議員定数が2名減の20名となり、臨時議会で工藤卓美さんが議長に就任しました。この2年間は、定例会が近づくたびに突然の問題が発生し、流会も含めて議会は緊迫し、紛糾や中断は当たり前のようなようでした。都度、議会三役会議や会派長会議、議会運営委員会などが頻繁に開催され、議会は深夜にまで及ぶこともありました。

平成13年から2年間は、町長部局へ異動となり、町民生活課長として勤めさせていただきました。平成13年7月の大雨による富津内地区の地すべり災害が発生したときでもあります。私は兼務で災害対策本部室長として議会と共有して災害の復旧に努めさせていただいたのも印象に残っています。

2度目の議会出向は平成15年度。職員は北嶋美保子さんと一緒に、議長は工藤卓美さんでした。この一年間は、いわゆる平成の大合併の時期であり、五城目町も井川町と八郎潟町とで湖東3町合併懇談会を開催していたころです。

議会としても合併協議会を設立し、協議を重ねてきましたが、合併は不調に終わりました。

議会事務局での3年間は、議会運営の特殊なケースが多く、難題も数多くありましたが、議長をはじめ、議員の方々、諸先輩のご指導により乗り越えることができました。今思えば感謝の気持ちでいっぱいです。また、議会事務局での経験が、その後の仕事や人的交流などに大変役立ったのは紛れもない事実であり、さらに、議会の視察研修での随行や、懇談会、他町村交流なども含め、議員の方々とのお付き合いも、貴重な経験であったと、改めて感謝しているところであります。

合併60周年という節目にあたり、議会が益々町の発展や町民福祉の向上のために、より一層の躍進をご祈念申し上げたいと存じます。

# 議会の活性化と活躍を期待

元 議会事務局長  
(平成13年4月1日～平成15年3月31日)

目 黒 洋



私が議会事務局長として在職させてもらったのは、平成13年度と平成14年度の2か年間でした。

「五城目町議会議員互助会規約」「議会運営に関する申し合わせ事項」「五城目町議会の運営に関する基準」などの作成に携わったのが思い出にあります。新しく何かを作るということは相当難儀な仕事ではありますが、皆さんの協力により作成できたと思っています。特に、申し合わせ事項や運営に関する基準は、法令で定めのないことを決める事によって、議会運営の円滑化や能率化の一助となり、議会の機能が一層発揮できるということで、当時の工藤卓美議長や運営委員の皆さんに協力を頂きながら作成した記憶があります。

議会事務局に「議会事務提要」という本がありまして、どこに何が書かれているかが大体理解できるほど何回も読んだものですが、残念ながら、今では全く覚えていません。

また、休日議会の開催や議員研修の随行なども思い出の一つです。

たった2年間ではありますが、もっと長く在職していたような気がするの、楽しく且つ有意義に過ごしたからだと思い、関係したすべての人に感謝したい気持ちです。

また、一緒に在職した斉藤琴子さんには、若輩者の私を支えて頂き大変助かりました。斉藤さんとは相性が良かったのか、一緒に議会事務局から異動になり、異動先も同じ学校教育課でありました。

最後になりますが、町議会の果たす役割と責任は益々重く、多様な町民の付託に応えなければならないと思います。また、今後は、二元代表制の一翼を担う地方議会としては、政策立案機能も求められると考えられます。五城目町議会の更なる活性化と活躍を多いに期待しております。

# 議会事務局の思い出

元 議会事務局長  
(平成16年4月1日～平成18年3月31日)

見 玉 昇



議会事務局での勤務は平成16年4月から2年間です。

異動になった年の3月に町議会議員の一般選挙があり、4月8日に新正副議長をはじめ各常任委員会の委員の選出など、議会の構成を決めるための臨時議会（初議会）が開会されました。異動早々の議会でしたが、前事務局長の小熊学校教育課長（当時）が、議会の進行について準備してありましたので、戸惑うことなく初議会に臨むことができたと思っています。

議長が議会で円滑に議事を進めるために、事務局では議長と協議し、進行表を作成しておりました。いろいろな状況を想定して作成するので、当日議長が使わないページもありますし、また想定外の方向に議事が進行することもあり、作成にあたっては大変気を使いました。

議事の進行や議会の運営等について疑問がある場合には、事務提要などで調べて対応しますが、どうしても納得のいかない場合や判断できない場合には、全国町村議会議長会議事調査部（東京都千代田区）に電話で問い合わせしておりました。部長と呼ばれている方が対応してくださいましたが、どんな質問にもほとんど即答でした。また、時間外でも応じてくれましたし、法的根拠なども示してくれました。その知識の深さに基づいた的確な回答、加えて親切な対応に感銘を受けました。

議事録は、業者が録音テープに基づいて作成していましたが、録音機の操作は事務局長が議場の事務局長席で行っていました。ある時、録音機を止め忘れたいと思いつつ議場の事務局長席に駆けつけると、テープは回っていませんでした。それで最初から録音機は動いていなかったと判断しました。録音テープがないと議事録を作成することができないと絶望的な気持ちになりました。そのことを総務課の庁舎管理担当職員に話すと、事務局長が止め忘れたいと思いつつ自分が止めたと言われ、ほっとしたことを覚えています。

2年間の短い議会事務局の勤務でしたが、2人の女性職員と一緒にいました。1年目は、前年度からの事務局職員でしたので、いろいろ教えていただくことができました。2年目は、議会事務局の勤務経験がない職員でしたが、どんな仕事でも意欲と熱意をもって取り組んでくれました。

当時の千田議長をはじめ議員の皆様には大変お世話になりました。あらためてお礼申し上げます。

# 在職中の思い出

元 議会事務局長  
(平成18年4月1日～平成19年3月31日)  
(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

石 川 昭 一



合併60周年を迎える記念すべき年に「議会60年史」を刊行するにあたり思い出の一端を述べることの出来る幸せに感謝の念でいっぱいです。

事務局長としての在籍は、通算2年間ですが、最初の1年間は千田峯夫議長、次の1年間は荒川正己議長のもとでご指導をいただきました。

お二方は現在も現職議員として地域の発展と町民の幸せを願い日々ご尽力をいただいていることに対して深甚なる敬意と感謝を申し上げたいと思います。

今思えば、定例会、臨時会等のたびごとに議長の進行表を作成するわけですが、本会議での議事進行が順調に進むか、いつもはらはらのしどおしであったことが強烈に思い出されます。

また、議論の応酬で進行表どおりに進まないこともしばしばでしたが、議員経験の豊富な両議長の機転のきいた議事進行で無事に終わったときの安堵感はいまだに忘れることが出来ません。

私が無事に勤めを果たすことが出来たのは、議員の皆様のご指導と激励があったことは当然のことながら、なんといっても私の手足として事務局を支えてくださった書記の猿田玲子さんを紹介しないわけにはいきません。

事務処理で抜群の能力を発揮していただいたことは勿論ですが、議員のみなさんは選挙で選ばれ町の発展と町民の付託に応えるため、日々頑張っている方々であることを十分理解した上での対応には敬服するばかりでした。また、国会議員や県議会議員そして町民など多くの来客がある中での的確な対応や議長と副議長への取り次ぎなどは、幼稚園教諭としての経験と持ち前の明るさやパワーを存分に発揮された方でありました。現在役場の中堅職員としてがんばっている玲子さんにエールをおくりたいと思います。

赤いじゅうたんが敷き詰められたすばらしい議場で一職員として働くことの出来た幸せを今さらながら感じております。

町民の付託に応えるために真剣に取り組んでいる議員の皆様のみならずのご活躍と合併60周年を契機に五城目町が尚一層発展されることをご祈念申し上げます。

# 常に改革を



前 議会事務局長  
(平成21年4月1日～平成26年3月31日)

## 伊藤直勝

私が議会事務局に出向したのは、平成21年4月から平成26年3月までの5年間である。

当時は、渡邊彦兵衛町長が2期目に入り、会期延長や時間延長の審議は少なかったと思う。また、懇親の場等でも事件事故もなく執行部と議会との関係はある程度穏やかな時期だったと思う。

議会に対する社会の流れは、議員数が多いとか、報酬が高いといった風潮が高まっていて、地方自治法も人口による議員定数の法定上限を廃止する改正がなされ、各自治体で自由に定数を定めることができるようになった。平成23年10月我が議会も定数を16名から14名とする議員提出議案が出された。臨時会を開催し、提出議員による議案説明、休憩を挟み討論を行い、起立採決の結果、賛成7・反対8で否決となり、次回の選挙は現状の16人で実施することになった。報酬についても、全国的に日当制や月額報酬の減額等の話題があったが、議員活動を充実していくとし、特に話し合いは行われなかった。

大きな流れの変化としては、地方議会議員年金制度が廃止となったことである。年金財政の逼迫が理由で廃止となったものだが、議員としての環境が一步後退したのではないかと考えている。

議員推薦の農業委員については、前回まで議員の中から選出していたが、関係団体から議員以外の女性委員を推薦してほしいとの要望もあり、議会としても、今後、女性が公選で立候補する環境に繋げていきたいとして同意し、全体会を開催し、推薦される方からの了解を得て各議員が女性委員2名を推薦し、調整して決めることに話し合いがついた。その後、議長を除く全員から推薦が出され、その中から2名の推薦者を議員の投票により決めて本会議に臨んだ。議場では2名の方を議長推薦とし、全員異議なしで決定した。議事進行や推薦された2名の方が承諾してくださるか心配したが、スムーズに進行し安堵したことが思い出される。

事務局職員は2名体制で、猿田玲子書記と1年間、工藤成子書記（現局長）と4年間仕事をさせていただいた。猿田書記は事務局に5年在職し、その間毎年局長が変わるという経験をしている。工藤書記は、まちづくり課町長秘書担当からの出向であった。両書記とも洞察力に優れ、各種会議の情報や雰囲気等細やかに報告してもらい、次の対策に備えることができた。議場の出口・入口について話題となり、町長席、議員番号席、局長の位置を考慮すると、回廊側が入口、廊下（階段）側が出口ではないかとの意見も出され、要検討である。

最後に60年の歴史を重んじ、受け継ぐべきは受け継ぎ、常に議会改革を意識し、議員としての役割を果たすため、議員各位の益々のご活躍をお祈り申し上げ、思い出としたい。